

TWEAKALIZER

DFX69

取扱説明書

バージョン 1.0 2003 年 12 月

日本語



www.behringer.com



TWEAKALIZER DFX69

安全にお使いいただくために



注意： 感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。製品内部には手を触れず、故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。

警告： 本機を水のかかる場所や湿気の多いところに置かないでください。火事や感電の原因となります。



このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が通じています。手を触れると感電の恐れがあります。



取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

安全にお使いいただくためのより詳細な注意事項
取扱説明書を通してご覧ください。

取扱説明書を大切に保管してください。

警告に従ってください。

指示に従ってください。

本機を水の近くで使用しないでください。

お手入れの際は常に乾燥した布巾を使ってください。

本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。

本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンブといった熱源から離して設置してください。

二極式プラグおよびアースタイプ（三芯）プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電器技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

カート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用する際の運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。



雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源コードまたはプラグが損傷した場合、本気内部に異物や水が入った場合、雨や水分で濡れた場合、本機が正しく作動しない場合、もしくは本機を落下させてしまった場合は、当社指定のサービス技術者に修理をご依頼ください。

この取り扱い説明書は著作権法上の保護下にあり、複製ないし復刻には、部分的なものを含め、また図面の複製は、変更したものを含め、BEHRINGER Spezielle Studiotechnik GmbH 社の書面による許諾を必要とします。BEHRINGER は登録商標です。

© 2003 BEHRINGER Spezielle Studiotechnik GmbH
BEHRINGER Spezielle Studiotechnik GmbH
Hanns-Martin-Schleyer-Str. 36-38
47877 Willich-Muench heide II, Germany
Tel. +49 2154 9206 0, Fax +49 2154 9206 4903

1. 概要

BEHRINGER TWEAKALIZER DFX69のお買い上げ誠にありがとうございます。DFX69はトレンドの最先端を行くDJエフェクトプロセッサです。この一台に備えられた数多くの性能によってまったく新しいクリエイティブなDJ-ingが行えます。TWEAKALIZERは、非常に簡単な操作であなたの創造性を最大限にサポートするプロフェッショナルなエフェクトプロセッサなのです。

時間は刻一刻と過ぎ去っていきます。当社は、トレンドの波に乗り遅れたくないDJのために、この最高の性能と技術を結集したDJエフェクトプロセッサを開発しました。この一台は特にダンスクラブ用の装置やDJ装置における使用において最大の威力を発揮します。

取扱説明書を読むというのは、すぐに装置を試してみたい方にとっては非常に面倒な作業となります。しかし、一度本取扱説明書を熟読すれば、このTWEAKALIZERの性能のすべてを理解することができ、これの理に叶った使用ができるようになります。時間をかけてゆっくりと取り掛かってください。

本書ではまず本製品のすべての機能を知ることができるように、本書で使用されている特別な用語の説明を行います。本書を注意深く読み終わった後は、本書を保管して、また後から繰り返し読み返すことができるようにしてください。

1.1 ご使用の前に

1.1.1 本製品の発送について

TWEAKALIZERは安全な輸送のために工場出荷時に十分な注意を払って梱包されていますが、万が一、包装材に損傷が見受けられる場合には、装置外部の損傷についても確認を行ってください。

装置が万が一故障している場合には、保証請求権が無効となる恐れがありますので、当社へ直接返送せず、必ず販売店および運送会社へご連絡ください。

DFX69を安全に運搬したい場合は、頑丈なケースに入れて持ち運ぶことをお勧めします。

本製品の保管や運送の際には、製品への損傷を避けるため、常にオリジナルの梱包を使用するようにしてください。

製品および梱包材等は、お子様の手の届かないところに保管してください。

梱包材等の環境保護に適した廃棄をこころがけてください。

1.1.2 本製品をお使いになる際の注意点

十分な換気の確保にご注意ください。また、装置のオーバーヒートを避けるため、熱を放散する他の装置とは十分に間隔を空けて設置してください。

電源への接続には付属の標準型IECコネクタ付きケーブルを使用します。このアダプターは必要安全基準を満たしています。

DFX69は電源接続されると、自動的にスイッチオン状態となります。

電源アダプターが電源に接続されている状態ではTWEAKALIZERを絶対にアダプターに接続せず、TWEAKALIZERと電源アダプターをまず接続してから、電源コンセントに接続してください。

必ず全装置にアース処理を行うようご注意ください。装置および電源線のアースを除去したり、無効力状態にすることは大変危険ですので、絶対に行わないでください。

1.2 本取扱説明書について

本書は、ユーザーの皆さんが操作部全体の機能について理解できるように、そしてそれと同時にその詳しい使用方法も分かるように構成されています。また、各機能の関連性がすぐわかるように、本書での説明は機能ごとにまとめられています。特定のテーマに関するさらに詳しい説明が必要な場合には、当社ウェブサイト (www.behringer.com) をご覧ください。

2. 操作部

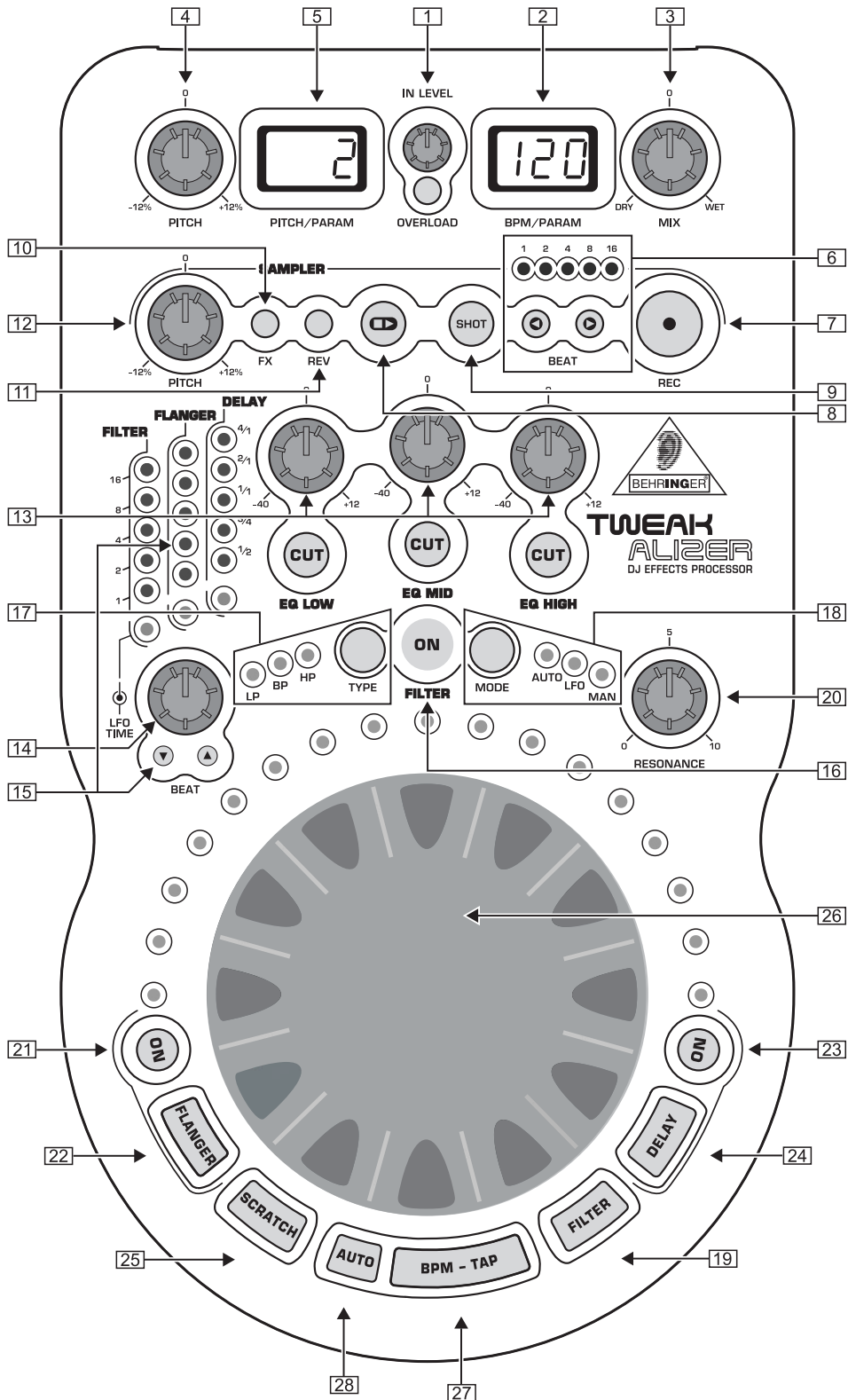


図 2.1: DFX69 のコントロールパネル

2.1 入力部

1 この IN LEVEL コントローラーは入力信号のレベル調整に使用します。入力信号が超過すると、その下にある OVERLOAD LED が点灯します。入力信号は、この LED が全く点灯しないか、まれに点灯するように設定してください。

2 この DISPLAY には、DFX69 に内蔵されたビートカウンターが検知した音源信号のテンポが表示されます。ENCODER (14) もしくはサンプラー PITCH コントローラー (12) を押してエフェクトを選択すると、ここにエフェクトの種類 (DLy, FLg, FLt, Plt) が点滅によって表示されます。SCRATCH エフェクト (第 2.3.4 章「スクラッチ」参照) を選択し、MIX コントローラー (3) を廻す

と、ディスプレイには「SCr」と表示されます。他に変更が行わなければ、数秒後に再び自動的に BPM 表示に戻ります。

- [3] この MIX コントローラーでオリジナル信号とエフェクト信号の音量調節を行います。これを左に廻しきるとオリジナル信号のみ（「ドライ」）がモニターでき、右に廻しきればエフェクト信号のみ（「ウェット」）のモニターが可能となります。

前回使用したエフェクトのミックスレベルを変更するためには、まず FLANGER もしくは DELAY キー（[22] または [24]）をタップしてください。該当する ON スイッチ LED（[21] または [23]）が点滅します。SCRATCH 機能が起動している場合は、同様にオリジナル信号とスクラッチ信号のミックスレベルを設定することができます。

- ☞ ご注意：MIX コントローラーはオリジナル信号と前回選択したエフェクト信号の音量調節を行うものです（該当する ON キー LED が点滅します）。最後に使用したエフェクトのミックスレベルを後から調節したい場合は、まず該当するエフェクトキーを押す必要があります（[22]、[24] および [25] 参照）。

- [4] この PITCH コントローラーを使って、入力信号のトーンピッチを調節することが出来ます（+/-12%）。
- [5] このディスプレイには -12 ~ +12 % で可変する PITCH 値が表示されます。ENCODER（[14]）を押してエフェクトを切り替えると、ここに編集用のタイムパラメータが短時間表示されます。さらにサンプル録音時には、ここに録音の残存時間とサンプラーの PITCH 値が表示されます（第 2.2 章「サンプラー」参照）。他に変更が行われなければ、自動的に PITCH 表示に切り替わります。

2.2 サンプラー

- [6] この BEAT キーで録音したいサンプルの長さを設定します。1 拍、2 拍、4 拍、8 拍、16 拍のどれか一つを選択してください。サンプルの実際の長さは音源の BPM 値を元に測定されます。拍数を選択すると該当 LED が点灯します。設定した拍数が終わると自動的に録音は終了します。自分でサンプル長を設定したい場合は、「16」と表示された右側の LED が点滅するまで拍数設定をステップさせてください。この設定で録音を開始すると（[7] 参照）、マニュアル操作で録音を終了させることができるようになります。それによってサンプルの長さを設定することができます。
- [7] この REC キーでサンプルの録音を開始します。録音の残り時間は左側のディスプレイに表示されます（[5] 参照）。このキーをもう一度押すと録音は終了します。サンプラーは装置の入力端子から取り込まれる音源のみを録音することが出来ます。
- [8] サンプルを録音したら、PLAY/STOP キーでこれを再生することが出来ます（PLAY を押すとサンプラーは繰り返しループ再生されます）。キーをもう一度押すと、ループは止まります（STOP）。REC キーでサンプル録音を始めた場合は、この PLAY/STOP キーでフルタイム録音が行われ、サンプル信号はその後直接再生されます。
- ☞ サンプルの長さを 1 拍、2 拍、4 拍、8 拍、16 拍の中から一つ選択し、さらにこの設定したサンプル長が終了する前に REC キーで録音を終了させた場合、残りのサンプルタイムは無音状態となります。そのためサンプル長の設定は基本的にそのまま保持されます。サンプルタイムを自由に設定したい場合は、上記の拍数は選択しないで下さい（赤の LED が点滅します）。
- [9] SHOT キーを押しつづけると、その間サンプラー信号は再生し続けます。
- [10] サンプラー信号にエフェクトを加えるかどうかの決定は FX キーで行います。スイッチをオンにすると、サンプラー信号のみにエフェクトが加わります。

- [11] REV キーを押すと、サンプラー信号再生中に PLAY/STOP もしくは SHOT キーで信号を逆回し再生することができます。
- [12] PITCH コントローラーはサンプラー信号のテンポおよびピッチを変更（-12 ~ +12 %）する際に使用します。その際ピッチ値がディスプレイ [5] に表示されます。値の変更後は、ディスプレイには入力信号のピッチ値が再び表示されます。

2.3 エフェクトセクション

- [13] DFX69 には 3 バンド KILL EQ (LOW, MID, HIGH) が備えられています。これは基本的に周波数をブースト (+12 dB) する以上にカット (-40 dB) することができる機能です。この EQ コントローラーに加えて、各周波数帯域には CUT キーが備えられているため、好みに応じて特定の周波数帯域を最大限にカット (-40 dB) することができるようになっていきます。これによって非常に面白いサウンド効果を生成することができるのです。
- [14] エフェクトセクションの ENCODER には 2 つの機能が備わっています。このコントローラーを押すと編集したいエフェクトの選択が行えます。ディスプレイ [2] には詳細が表示されます。ENCODER を廻すと、その下にある BEAT キー（[15] 参照）とは異なり、LFO およびディレイタイムを自由に設定することが可能となります。パラメーターを変更している間は、情報はディスプレイ [5] に表示されます。

詳しい説明：

LFO とは低周波オシレーターを指します。これはディレイタイムやフィルター周波数といったエフェクトパラメーターを変更する低周波信号です。

- [15] BEAT キーで LFO およびディレイタイムの設定を選択できますが、ここでは前回使用した設定が呼び出されます。この設定は BPM 値と対応しています。LFO およびディレイタイムは ENCODER の上部にある LED に表示されます。

2.3.1 フィルター

フィルター効果は DFX69 の大きな特徴の一つです。3 タイプのフィルターを 3 種類の異なるモードで使用することが可能です。フィルタータイプとモードに関しては [17] および [18] をご参照ください。

- [16] DFX69 の FILTER エフェクトは ON キーを押して起動/解除させることが出来ます。DATAWHEEL（[26] 参照）の周りに備えられた LED が現在のフィルター周波数を表示します。
- [17] TYPE キーでフィルターの種類を選択します：

LOW PASS (LP):

ローパスフィルターはカットオフ周波数 24 dB/oct. を上回る周波数帯域をカットします。フィルター効果が効き始めるカットオフ周波数は、選択したフィルターモード（[18] 参照）によって異なります。

HIGH PASS (HP):

ハイパスフィルターはカットオフ周波数 24 dB/oct. を下回る周波数帯域をカットします。ここでもカットオフ周波数は選択したフィルターモードによって左右されます。（[18] 参照）

BAND PASS (BP):

バンドパスフィルターは調節可能なセンター周波数のレベルを押し上げます。バンドワイズは 12 dB/oct. となっています。フィルター周波数の動きはフィルターモードによって異なります。（[18] 参照）

TWEAKALIZER DFX69

- [18] MODE キーはお好みのフィルターモードを決定する際に使用します。以下の 3 モードが利用可能です：

LFO モード、MANUAL モードおよび AUTO モード

MODE キーを短く押すと LFO モードおよび MANUAL モードの切替が行えます。AUTO モードにするためには、このキーを長く押し続けてください。このキーをもう一度軽く押すと再び LFO モードに戻ります。

LFO (低周波オシレーター)

このモードでは、LFO はカットオフ周波数最も低い周波数から最も高い周波数に移動させ、さらにそれを戻すことが可能です。ENCODER を使用すればこのプロセスが行われるスピードの調節を自由に行えます。BEAT キー ([14] および [15] 参照) を使用すれば、各段階ごとの調節が可能です。BEAT キーを使用した設定は、ビート単位での相対値で表示されます。例えば「2」という値を設定した場合、カットオフ周波数は 2 ビートの間に最も低い周波数から最も高い周波数へと移動し、再び元に戻ります。DFX69 は BPM 信号によってこの「タイム」を自動的に計算します。

MANUAL (マニュアル)

このモードでは、カットオフ周波数を DATAWHEEL ([26] 参照) を使用して設定することができます。ENCODER もしくは BEAT キー ([14] および [15] 参照) を使ってフィルターが効き始めるまでの時間を設定することが可能です。設定した時間が短ければ短いほど、フィルターは DATAWHEEL の動きに素早く反応します。

AUTO (オート)

このモードでは、カットオフ周波数は音声信号のレベルによってモジュレートされます。このモードにおいては、この機能が入力信号に的確に反応するよう、フィルター感度を適切なレベルに調節する必要があります。([19] 参照)

- [19] FILTER キーは SAMPLER セクションにおける SHOT キーと同様の機能を備えています。キーを押し続けると FILTER 効果がアクティブとなります。キーを離すと、これは解除されます。

AUTO モードでは FILTER キーは特別な機能を発揮します：このキーを押したまま DATAWHEEL を廻すとフィルター感度が設定できます。楽曲によって音量が変化し、フィルターもそれによって異なる反応をする場合は、この感度値を調節する必要があります。例えば、現在かけている曲の音量がその前にかけた曲より小さい場合、曲のリズムにフィルターが的確に反応するようこの感度設定を上げる必要があります。逆に音量が大きい場合は、この感度を下げてください。

- [20] RESONANCE コントローラーで LOW PASS および HIGH PASS フィルターのカットオフ周波数を上げることが出来ます (0 - 10)。これによってエフェクトのプレゼンスが強調されることとなります。

2.3.2 フランジャー

英語の「Flange」とは「録音テープのリール」を意味します。これがまさにこのエフェクトの特徴を表します。本来フランジャー・エフェクトは、同時に作動する 2 機の録音テープ機で作成されました。両方の機械でギターソノなどの同じ信号を録音したのです。その後、片方の機械の左リールを指で押さえると、リールにプレーキがかかり再生速度が落ちるのです。そしてここから発生するディレイが信号のズレを引き起こしました。

- [21] この ON キーで DFX69 の FLANGER 効果を起動／解除させることが出来ます。

エフェクトの LFO スピードを設定するためには、まず ENCODER ([14] 参照) を押し FLANGER を起動させます。その下にある BEAT キーを使ってスピードレベルを選択することが出来ます。この設定は、現在の BPM 値によって表示された相対値です。ENCODER を廻すとスピードを自由に設定することができます。エフェクトを起動させた状態で DATAWHEEL ([26] 参照) を廻すと、マニュアル操作で FLANGER モジュレーションを生成することが

出来ます。FLANGER キーを押した状態で DATAWHEEL を廻すと、4 ビート以内でスムーズに繰り返されるフィードバックモジュレーションが生成されます。

- [22] FLANGER キーを押し続けると、その間エフェクトが起動し、キーを離すとエフェクトは解除されます。

最後に選択したエフェクトがこの FLANGER だった場合 (ON キー LED が点滅します)、MIX コントローラー ([3] 参照) を使用してエフェクトとオリジナル信号 (前回使用したエフェクトを含む) の音量レベルを調節することが出来ます。

2.3.3 ディレイ

DELAY エフェクトは、入力信号を繰り返し発生させることで印象的な効果を生じるものです。オリジナル信号と「エコー」効果との「ずれ」度合は選択したディレイタイムに左右されます。

- [23] ディレイタイムを設定するためには、まず ENCODER ([14] 参照) を押し DELAY を起動させます。その下にある BEAT キーを使ってディレイタイムを選択することが出来ます。例えば「2/1」を選択した場合、音源に対して 2 倍、「1/2」を選択した場合は半分の「ずれ」が発生するようになっています。実際の音の長さは BPM 値に左右されます。ENCODER を廻すことで、自由に設定を変更することが出来ます。

- [24] DELAY キーを押し続けると、その間エフェクトが起動し、キーを離すとエフェクトは解除されます。

最後に選択したエフェクトがこの DELAY だった場合 (ON キー LED が点滅します)、MIX コントローラー ([3] 参照) を使用してエフェクトとオリジナル信号 (前回使用したエフェクトを含む) の音量レベルを調節することが出来ます。

2.3.4 スクラッチ

このエフェクトは、レコードプレーヤーを使った「スクラッチ」サウンドをシミュレートしたものです。TWEAKALIZER は音源から 4 ~ 8 拍子でサンプルを記憶します。DATAWHEEL ([26] 参照) を廻してスクラッチサウンドを生成します。

- [25] SCRATCH キーを押すと DFX69 のスクラッチ機能が起動／解除します。

スクラッチ機能を起動させた後 (SCRATCH キーが点滅します)、MIX コントローラー ([3] 参照) を使用してスクラッチ信号とオリジナル信号 (前回使用したエフェクトを含む) の音量レベルを調節することが出来ます。

- [26] このモードにおいて DATAWHEEL を廻すと、レコードプレーヤー同様、入力信号にスクラッチサウンドを加えることが出来ます。

2.3.5 BPM カウンター

DFX69 の BPM カウンターによって、エフェクトとオリジナル音源をシンクロさせることが出来ます。このカウンターは、接続された音源のテンポを BPM (Beats Per Minute) 単位で表示します。DFX69 の BPM カウンターはマニュアルおよびオートの両方で使用可能となっています。BPM 値はディスプレイ [2] に表示されます。

- [27] BPM-TAP キーを押すと、BPM カウンターはマニュアルモードに切り替わります。このキーを音楽のリズムにあわせて何度か押すと、それに合わせて BPM 値が変化します。この値は、キーを新たに押す度に変化するようにになっています。

- [28] AUTO キーを押すとオートモードに切り替わります。この時 BPM カウンターは接続された音源のテンポを常時 BPM 値で表示します。

- ☞ 装置に電源を入れた際は、この BPM カウンターは常に **AUTO** モードとなっています。
- ☞ 音源が接続されていない、もしくは信号レベルが低い場合は、ビートカウンターのディスプレイが点滅します。ビートカウンターが音源のテンポを認識できない場合もこの現象が起きます。

2.4 接続

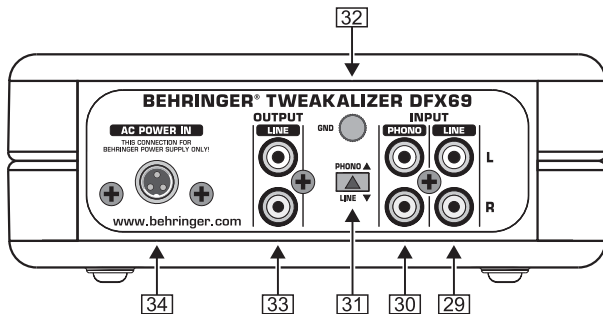


図 2.2: リアパネル部の接続端子類

- ☞ 29 DJ ミキサーのメイン出力信号などのライン信号接続用の **LINE** 入力端子です。
- ☞ 30 レコードプレーヤーは、この **PHONO** 入力端子に接続してください。
- ☞ ラインレベルの機器を高感度のフォノ入力端子に接続しないで下さい。フォノピックアップの出力レベルがミリボルト単位であるのに対し、**CD** プレーヤーやテープデッキのレベルはボルト単位です。すなわち、ライン信号レベルはフォノ入力の場合に比べ最大で **100** 倍も高くなっているのです。ラインレベルへの感度切替が可能なフォノ入力を使用する際は、**PHONO/LINE** スイッチが必ず該当する位置に切り替わっていること語必ずご確認ください。
- ☞ 31 **PHONO/LINE** スイッチを使って、ライン信号（スイッチオン状態）またはフォノ信号（スイッチオフ状態）の切替を行います。
- ☞ 32 **GND** コネクターはターンテーブルのグラウンドを取る際に使用されます。
- ☞ 33 **OUTPUT** コネクターは、信号をアンプもしくは DJ ミキサーに送り込みます。
- ☞ 34 この **AC POWER IN** コネクターに DFX69 付属の電源アダプターを接続し、装置への電源供給を行います。
- ☞ 本装置を長期間ご使用にならない場合は、電源アダプターをコンセントから抜いてください。

3. 使用方法

3.1 DJ ミキサーのエフェクトループへの接続

TWEAKALIZER DFX69 は、エフェクトループを備えた DJ ミキサーとの使用に最適です。BEHRINGER ではこの使用に適した数多くのミキサーを提供しています。ここでは PRO MIXER VMX1000 を例にあげてみましょう。

DJ ミキサーのエフェクトループと DFX69 を接続するためには、ミキサー側の SEND 出力端子をエフェクト機器のライン入力を接続してください（PHONO/LINE スイッチは「オン」状態にしてください）。

TWEAKALIZER の出力端子はミキサーのリターン入力端子に接続します。これによってエフェクト信号はミキサーのメイン信号にミックスされます。エフェクト信号のみ（ウェット）をモニターしたい場合は、DFX69 の MIX コントローラーを右一杯まで廻しきってください。

DFX69 と PRO MIXER VMX1000 との接続方法は、以下の図でご覧ください：

Connector panel VMX1000

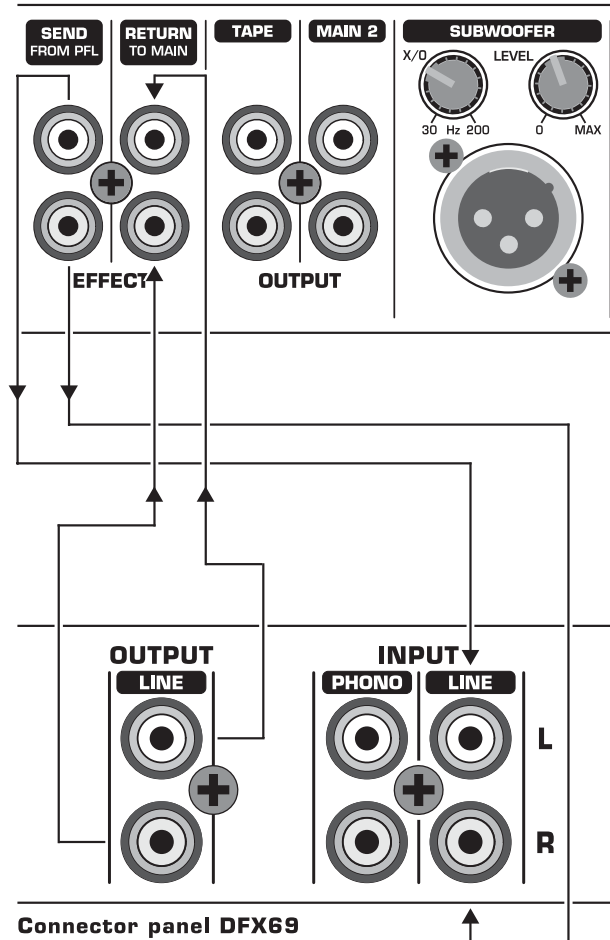


図 3.1: PRO MIXER VMX1000 のエフェクトループへの接続

3.2 フォノ／ライン信号とのダイレクト接続

ミキサーを使用しなくてもライン信号とフォノ信号を直接 TWEAKALIZER に接続することが出来ます。この場合、お手持ちのレコードプレーヤーおよび CD プレーヤー（もしくはその他のライン信号音源）にエフェクト機器接続用の入力端子が備えられている必要があります。

- ☞ 高感度のフォノ入力端子には **CD** プレーヤーや **MD** プレーヤー、テープデッキといったラインレベルの信号は絶対に接続しないで下さい。故障の原因となります。フォノ入力端子にはレコードプレーヤーのみ接続してください。

DFX69 の出力信号はパワーアンプもしくは Hifi アンプのアンプ入力に接続してください。

その際、オリジナル信号とエフェクト信号がバランスよく聞こえるよう MIX コントローラーを使用して両信号の割合を常に適切なレベルに調節してください。

以下の図は TWEAKALIZER とレコードプレーヤーおよび Hifi アンプの直接接続の方法を示しています。この時 DFX69 の PHONO/LINE スイッチが適切な位置に切り替わっているか必ずお確かめ下さい（この場合は押されていない状態となります）。

TWEAKALIZER DFX69

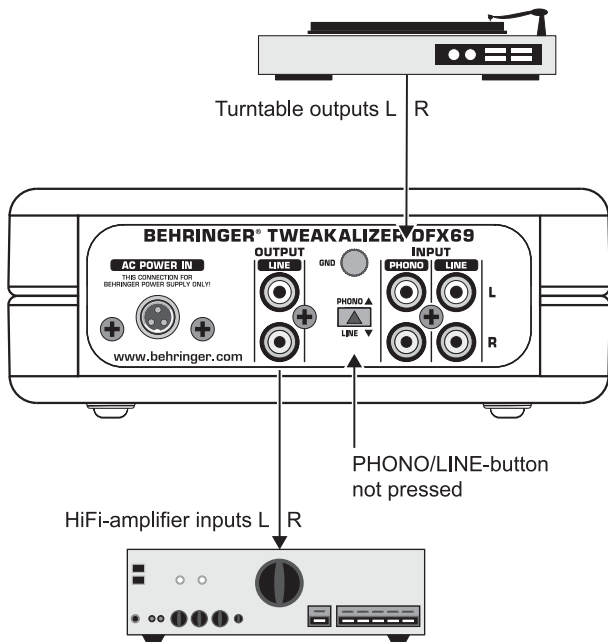


図 3.2: レコードプレーヤーとのダイレクト接続

4. インストール

オーディオ接続のためには市販されているピンプラグが必要となります。

本装置の設置と操作は、専門家のみが行うようにしてください。装置の設置に際しては、常に作業者の設置を確保してください。静電気の放電によって装置の誤操作や恒久的な損傷を招く恐れがあります。

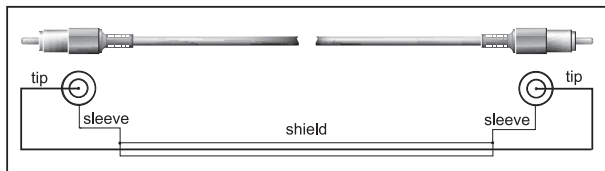


図 4.1: ピンプラグ

5. テクニカルデータ

オーディオ入力 タイプ	ライン
インピーダンス 最大入力レベル	0 dB ゲイン、アンバランス型 47 kΩ @ 1 kHz 22 dBu
タイプ	フォノ
インピーダンス 最大入力レベル	40 dB、アンバランス型 47 kΩ @ 1 kHz -30 dBu
オーディオ出力 タイプ	ライン
インピーダンス 最大出力レベル	100 Ω @ 1 kHz 12 dBu
システムデータ 周波数レスポンス S/N 比	10 Hz - 22 kHz, +1/-3 dB 98 dBu, a-weighted, 22 Hz - 22 kHz (ライン)
歪み率 (THD)	0,007% typ. @ +6 dBu, 1 kHz, アンプ 1 (ライン)
クロストーク	< -83 dB, 22 Hz - 22 kHz (ライン)
ゲインレンジ	-20 dBu - +10 dBu
デジタルエフェクトプロセッサ コンバーター	24-bit デルタシグマ、 64/128倍速オーバーサンプリング
サンプリングレート	44,1 kHz
電源供給 供給電圧	米国/カナダ 120 V~, 60 Hz 英国/オーストラリア 240 V~, 50 Hz ヨーロッパ 230 V~, 50 Hz 日本 100 V~, 50 - 60 Hz
消費電力 ヒューズ	アダプターに記載 外部 PSU
外形寸法/重量 寸法 重量	約 81 mm x 169 mm x 309 mm 約 1 kg

BEHRINGER 社は、最高品質水準の維持に向けた努力を常時おこなっています。必要とみなされた改良等は事前の予告無しに行われますので、テクニカルデータおよび製品の外観が実物と多少相違する可能性があります。